

トラフグの標識放流

小島 博・城 泰彦・阿部 久一
蛇目 勲・楠本 輝一・上田 幸男
森 啓介

本県におけるトラフグ漁業は昭和59年に東由岐漁業協同組合でフグ浮延縄の改良により、漁獲量が増加したことがきっかけとなりこれまでの底延縄に代わり、昭和60年以降、海部郡内の各漁協に普及した。従来のフグ延縄(底縄)の漁期は9～2月であったが、漁具の改良により漁期が前後にそれぞれ1ヶ月伸びた。

紀伊水道、播磨灘水域では当才魚を主体に主として小型底びき網漁業によって漁獲されている。海部郡では8～11月に底延縄、12～3月中旬に浮延縄で漁獲され、前者が900g前後、後者が1kgが主で、200～400gのものも混獲される。

瀬戸内海東部海域におけるトラフグの産卵場は香川県多度津や丸亀付近など広いことが予想されている。産卵期は5～6月で、9月以降、播磨灘、紀伊水道、12月以降海部郡沿岸で漁獲される当才トラフグの起源となっている。海部郡沿岸では、この当才トラフグは浮延縄で漁獲されるほか、伊座利、日和佐町、鞆浦各漁協の大型定置網でも獲れる。しかし、当才トラフグの3月以降の分布・回遊範囲など明らかでない。

トラフグ資源を有効に利用するには、本県で漁獲されるトラフグの、特に当才後半からの生態に関する調査研究が必要である。

1. 材料及び方法

昭和62年3月30日、高知県室戸市椎名漁業協同組合の大型定置網に午後の網持ちで漁獲されたトラフグを標識放流に用いた。現地で下歯をカットして、活魚車で徳島県栽培漁業センターへ輸送し、100トン水槽に2×2×2m小割2張を設置し収容した。

3月31日に背骨型標識(プレート:黄色87トク)を装着し、活魚車で牟岐東漁協岸壁まで運び、漁船3隻で大島北側水域へ放流した。

放流魚の入手から放流まで多くの関係者の協力を得た。特に、牟岐東漁協大久保鶴男組合長をはじめ、延縄部会の皆様、鞆浦漁協、椎名漁協、徳島県栽培漁業センターの関係者に感謝します。

2. 結果

放流したトラフグは全長20～32cm、平均体重223gであった。全長(TL, mm)、標準体長(SL, mm)及び体重(BW, g)の関係を表1に示した。これらの関係は次式で示された。

表1 放流トラフグの全長(TL)、標準体長(SL)及び体重(BW)

全長(TL) mm	標準体長(SL) mm	体重(BW) g
198	167	152
205	166	144
211	176	139
214	176	148
224	186	167
231	192	210
274	236	256
275	239	230
280	242	254
312	269	368
321	278	386

$$TL = 1.052SL + 26.976 \quad (r = 0.998)$$

$$BW = 2.60 \times 10^{-3} (TL)^{2.05} \quad (r = 0.970)$$

$$BW = 1.25 \times 10^{-2} (SL)^{1.82} \quad (r = 0.965)$$

放流地点を図1に示した。放流場所は日和佐町玉厨子山頂と剣山(けんやま、牟岐東漁協では通称ホクロク)の見通し、水深90mの地点である。放流水域の低質は砂泥で、比較的平坦な海底がひろがった場所である。

トラフグは、漁獲から放流までほぼ24時間かかり、取扱いの過程で噛み合いにより皮膚に多くの歯型が見られ、かつ、標識が付けられたが、放流直後のトラフグの多くは斜めに海底方向に泳ぎ去り、一部の個体が数分間にわたって表層を泳いでから潜った。

3. 考察

海部郡におけるトラフグは地方名称としてテツフグ、テツ、モンフグなどと呼ばれている。成長段階によっ

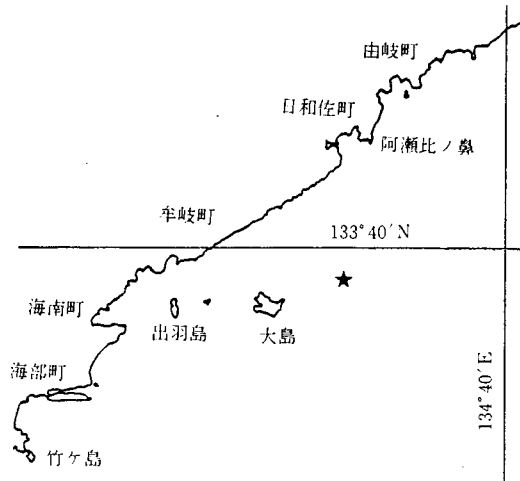


図1 標識トラフグの放流場所(星印)

でも、30~40gのものをゴッスン(5寸, 15cm), 牟岐町で500g以下, 由岐町で700g以下をピンポンと称している。また、4kg前後の大型トラフグを一貫フグと称している。

徳島県における昭和55年から60年の間のフグ類漁獲量の推移を付表に示した。播磨灘・紀伊水道水域で昭和58年以降小型底びき網での漁獲量が、また、昭和59年に瀬戸内海区及び太平洋南区(海部郡)での延縄での漁獲量が急増していることが判かる。

トラフグ資源が注目された理由として、新しい漁具が普及したことに加え、東シナ海・黄海のトラフグ漁

獲量が昭和57, 58年以降激減して品薄になったこと、昭和59年頃より冷凍技術が改良され、夏場に漁獲される物も高値で販売されるようになった事などがある。更に、昭和58年に瀬戸内海全体でトラフグの大発生があり、本県のトラフグ資源の水準が高くなったことも関連がらう。

トラフグの回遊範囲は広いと想定されており、海洋生活について多くは未知のままとなっている。今回標識放流したトラフグの再捕範囲より本県のトラフグ資源の生活圏を明らかにすることがまず必要であらう。来年度以降の報告が待たれるところである。

付表1 徳島県の漁具・漁法別によるフグ類の漁獲量

単位 トン

海区	漁業種類	昭和					
		55年	56年	57年	58年	59年	60年
瀬戸内海	小型底びき網	32	42	31	68	92	58
	釣	0	2	0	2	0	0
	延縄	2	—	—	1	26	13
	小型定置網	1	3	5	6	16	4
	その他	1	—	1	—	—	—
太平洋南	釣	2	—	1	1	8	3
	延縄	15	11	22	18	35	13
	大型定置網	2	0	2	7	4	3
	小型定置網	0	0	0	1	0	1
瀬戸内海区合計		36	47	37	77	134	75
太平洋南区合計		19	11	25	27	47	20
徳島県 合計		55	58	62	104	181	95

徳島農林水産統計年報(中四国農政局徳島統計情報事務所)より